



自衛隊群馬地方協力本部

JAPAN SELF DEFENSE FORCE GUNMA PROVINCIAL COOPERATION OFFICE

広報官母校訪問

2等空曹 沖 聡子

自衛隊群馬地方協力本部太田出張所(所長 1等海尉 谷本 明)は、令和6年7月17日、同前橋募集案内所(所長 2等陸尉 土屋 章)の支援を受け、学校法人 群馬育英学園 前橋育英高等学校(校長 二渡 諭司)弓道部(顧問 真下 智紀)において母校訪問を実施した。

令和6年6月23日の上毛新聞一面に、母校弓道部(女子)が23年ぶりにインターハイ群馬県予選優勝の記事を見つけ、忘れかけていた当時の記憶が瞬く間に蘇り、気づいた時には、所長に「母校訪問させてほしい。」と相談していた。

23年前の梅雨が明けぬ暑い日、競技中に天候が悪くなり、雷が鳴り、雷が降る中、私の離れた最後の1射は風で煽られながらも的中し、インターハイ群馬県予選優勝が決まった。射場を退出した瞬間、言葉もなく部員たちを抱き合い涙したのを今でも鮮明に覚えている。

当時の自分を知る教諭は、いないだろうと思ひ弓道場へ赴くと、現在の顧問が迎えてくれ、「当時、私、教員1年目でした。当時の先生もよろしくと言っていました。」との言葉に、感謝の気持ちで自然と頭が下がった。

23年ぶりに入る道場は、外観は当時のまま。内装は、レイアウトが少し変わった程度で、ほぼ当時のまま。中では、既に練習が始まっており、道場が狭く感じるほどの部員が弓を引いていた。

部員が揃い、少し時間をもらったため「弓を引く度にまめが痛むことも、(矢に付いている)羽で手を切ったことも、弦で腕や頬を打ったこともあったでしょう。困難を自分で考え仲間と協力し乗り越えてきたから、団体(5人制)での優勝という結果を出すことができた。それは人生にとってかけがえのない経験で、今後もしっかりと自分を支えてくれる。正射必中(正しい射法で射られた矢は、必ず中る。)は、今でも自分の心の中心にあり、今の自分を支えてくれている。」と話をした。

生徒からは「私たちも23年経っても同じことが言えるように、これからも頑張ります。」と答えてくれた。

後日、顧問からお礼のメールが届いたので紹介する。

「生徒への応援、ありがとうございました。生徒も大変喜んでおり、励みになりました。育英高校弓道部としては、創部3回目の団体でのインターハイ参加となります。良い報告ができるように残りの日数も全力で指導にあたりたいと思います。本当にありがとうございました。」



令和6年度自衛官募集ポスターデザインコンテスト優秀作品表彰式 ～応募総数146作品から優秀作品を選出～

募集課

自衛隊群馬地方協力本部(本部長 小久保 勝之 防衛事務官)は、令和6年7月22日(月)、東日本デザイン&コンピュータ専門学校(群馬県前橋市)において、令和6年度自衛官募集ポスターデザインコンテストの最優秀作品及び優秀作品の表彰式を実施した。

自衛官募集ポスターデザインコンテストは、同年代の募集対象者に共感を得るような斬新で新鮮なデザインの自衛官募集ポスターを作成するため、群馬県内の学生を対象に自衛隊群馬地方協力本部が企画したもので、応募総数146作品の中から優秀作品として8作品が選出、今回の表彰式では、最優秀作品1作品及び優秀作品2作品に選出された東日本デザイン&コンピュータ専門学校の学生に対しデザイン&コンピュータで表彰状の贈呈が行われた。

自衛隊群馬地方協力本部は、「募集対象者に共感を得られる素晴らしい作品に感銘を受けた。ポスターを見た若い世代の方にもっと自衛隊を知っていただき、自衛隊の魅力について発信していきたい。」としている。



表彰状贈呈



受賞者(写真中央2人)



最優秀作品